

資 料 編



# = 目 次 =

## 1 将来の予測に関する資料

1.1 予測の方法	1
1.2 将来人口の予測	3
1.3 ごみ排出量の予測	4
1.4 減量化後の分別排出量の予測	13
1.5 資源化促進後の処理施設別処理量及び資源化量の予測	16

## 2 家庭系ごみ（可燃ごみ）組成調査に関する資料

2.1 調査概要	20
2.2 調査品目	20
2.3 調査方法	21
2.4 調査結果	21
2.5 写真	22

## 3 民間資源ステーションでの回収量に関する資料

3.1 回収量	23
3.2 資源化率	24



# 1 将来の予測に関する資料

## 1. 1 予測の方法

### 1) 推計方法

将来のごみ量推計は、複数の傾向を示すモデル式（回帰方程式）を過去の実績値に当てはめることで推計を行います。

これにより、増減が繰り返される過去のごみ量の推移は、モデル式にしたがって一定の傾向に集約されます。

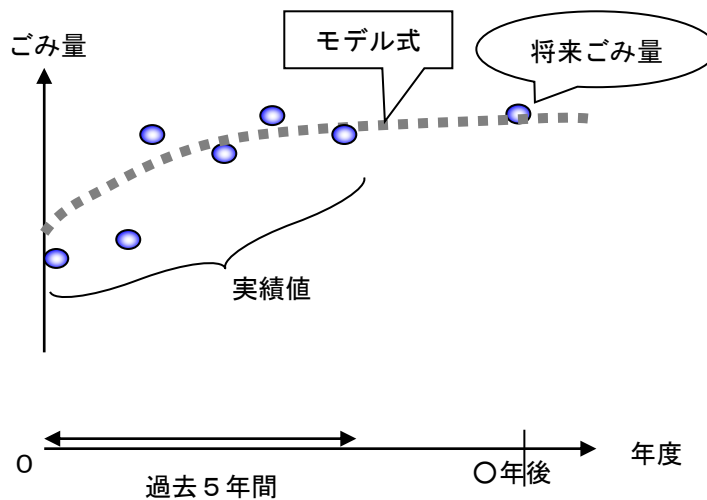


図 1-1 推計方法

また、推計式については一般的に用いられるもののうち、表 1-1 に示す5式を使うこととします。

表 1-1 予測に用いる推計式

数式	特徴
直線式 $Y=a+b \cdot t$	<ul style="list-style-type: none"> <li>実績値の増減率をそのまま推移させる式であり、増減傾向は一定である。</li> <li>長期の予測では不自然になることもあるため、予測値の妥当性の判断が必要である。</li> </ul>
べき乗式 $Y=a \cdot t^b$	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの場合は増減率が徐々に大きくなることから、長期的な予測に関しては、予測値の妥当性の判断が必要である。</li> <li>実績値が増加し続ける条件で、もっとも当てはまりが良いとされている。</li> <li>減少傾向となっている場合には、推計結果が得られない場合がある。</li> </ul>
指数式 $Y=a \cdot b^t$	<ul style="list-style-type: none"> <li>実績値の増減率を一定の比率で変化させる式であり、実績値のばらつきが少ない場合においてよく適合する。</li> <li>多くの場合は増減率が徐々に大きくなることから、長期的な予測に関しては、予測値の妥当性の判断が必要である。</li> </ul>
ロジスティック式 $Y=k/(1+e^{a-b \cdot t})$	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物個体数の変化を表すモデルとして考案された式であり、成長曲線とも呼ばれる。</li> <li>一般的に飽和値 <math>k</math> はその環境下で存在できる最大値を示す定数である。</li> <li>次第に増減率は抑制され、最終的には一定値（飽和値）<math>k</math> に収束していく。</li> </ul>
二次関数曲線式 $Y=a+b \cdot t+c \cdot t^2$	<ul style="list-style-type: none"> <li>放物線状のグラフとなる式で、実績値あるいは予測値に極端な値を含む場合は傾きが反転する。</li> <li>増減傾向は急激であり、実績値の変動傾向を極端に反映した予測になりやすい。そのため、相関係数が高い場合でも、実績値と予測値の整合性等を判断する必要がある。</li> </ul>
Y : 推計値      t : 年 度      a , b , c , k : 係数	

## 2) 人口の予測

将来の人口は、次の方法により予測しました。

- ・ 平成 29 年度～令和 3 年度の実績から統計計算による予測を行い、その結果と上位計画等の推計人口を確認します。
- ・ 総合計画人口（56,600～59,500：令和 12 年度）と整合性が高く、予測結果の相関も高い予測式の値を採用します。

本市の将来人口については、第 5 次津島市総合計画における展望人口と国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計結果を参考にしました。

## 3) ごみ排出量の予測

ごみ排出量は、次の方法により予測しました。

- ・ 平成 29 年度～令和 3 年度の実績から、「生活系収集ごみ」「生活系直接搬入ごみ」「事業系ごみ」の排出区分別に 1 人 1 日当たり排出量（事業系ごみは 1 日当たり）の予測を行います。
- ・ 排出区分別に過去の実績から統計計算による予測を行い、もっとも妥当と思われる値を採用します。
- ・ 1 人 1 日当たり排出量や 1 日当たり排出量と計画処理区域人口から排出区分別のごみ排出量を算出します。
- ・ 排出区分別ごみ排出量の予測値から令和 3 年度の実績に基づいて、ごみの種類別排出量を比率按分して算出します。

## 4) ごみ処理量の予測

3) で予測した種類別排出量について、それぞれの処理・処分方法に応じた量を現状の処理実績や本編の基本方針等に基づき予測します。

## 1. 2 将来人口の予測

### 1) 行政区域内人口

実績は減少傾向を示しており、予測値も減少傾向となっています。

「第5次津島市総合計画」は、目標年次である令和12年度に56,600～59,500人の人口を展望しており、この値に合致するのは指数曲線式(56,832人)です。したがって、指数曲線式を採用することが妥当といえます。ただし、予測式の計算結果と実績値の値で100人の差が生じるため(令和3年度での差)、その差分を補正します。(推計値-100人)

実績による推計結果を表1-2及び図1-2に示します。

表 1-2 将来人口推計結果

単位:人

	年度	推計結果					採用値 (指数-100人)	総合計画 人口	国立社会保険・ 人口問題研究所 (参考)
		直線	べき乗曲線	指数曲線	ロジスティック曲線	2次関数曲線			
↑ 実績	H29	63,285					63,285		
	H30	62,720					62,720		
	R1	62,407					62,407		
	R2	61,827					61,827		
	R3	61,146					61,146		
↓ 予測	R4	60,726	61,252	60,739	60,423	60,476	60,639		
	R5	60,209	61,065	60,237	59,575	59,710	60,137		
	R6	59,692	60,903	59,738	58,603	58,872	59,638		
	R7	59,174	60,762	59,244	57,497	57,963	59,144		58,043
	R8	58,657	60,635	58,753	56,243	56,982	58,653		
	R9	58,140	60,520	58,267	54,832	55,930	58,167		
	R10	57,623	60,416	57,785	53,256	54,807	57,685		
	R11	57,106	60,320	57,307	51,508	53,613	57,207		
	R12	56,589	60,232	56,832	49,587	52,347	56,732	56,600～59,500	54,735
	R13	56,072	60,150	56,362	47,497	51,011	56,262		
	R14	55,555	60,073	55,895	45,246	49,602	55,795		
	R15	55,038	60,001	55,433	42,849	48,123	55,333		
	R16	54,521	59,933	54,974	40,328	46,572	54,874		
	R17	54,003	59,868	54,519	37,709	44,950	54,419		51,392
	R18	53,486	59,808	54,068	35,025	43,257	53,968		
		推計式	$Y=a+b \cdot t$	$Y=a \cdot t^b$	$Y=a \cdot b^t$	$Y=K/(1+e^{-a-b \cdot t})$	$Y=a+b \cdot t+c \cdot t^2$		
		a	-517.1000	63,465.4275	63,844.7624	0.0318	-35.6429		
		b	63,828.3	-0.0198	0.9917	-0.1657	-303.2429		
	K	---	---	---	65,610.13	63,578.800			
	r	0.9864	0.9057	0.9856	<b>0.9934</b>	0.9929			

増減率の 適合度合	推計式	自	至	年数	平均増加率(%)	判定
	実績値	63,285.0	61,146.0	5	-0.685319	—
	直線	60,725.7	53,486.3	15	-0.842706	2
	べき乗曲線	61,251.7	59,807.7	15	-0.158921	3
	指数曲線	60,739.2	54,067.8	15	-0.772674	1
	ロジスティック曲線	60,423.4	35,024.8	15	-3.570178	5
	2次関数曲線	60,476.2	43,256.8	15	-2.209201	4

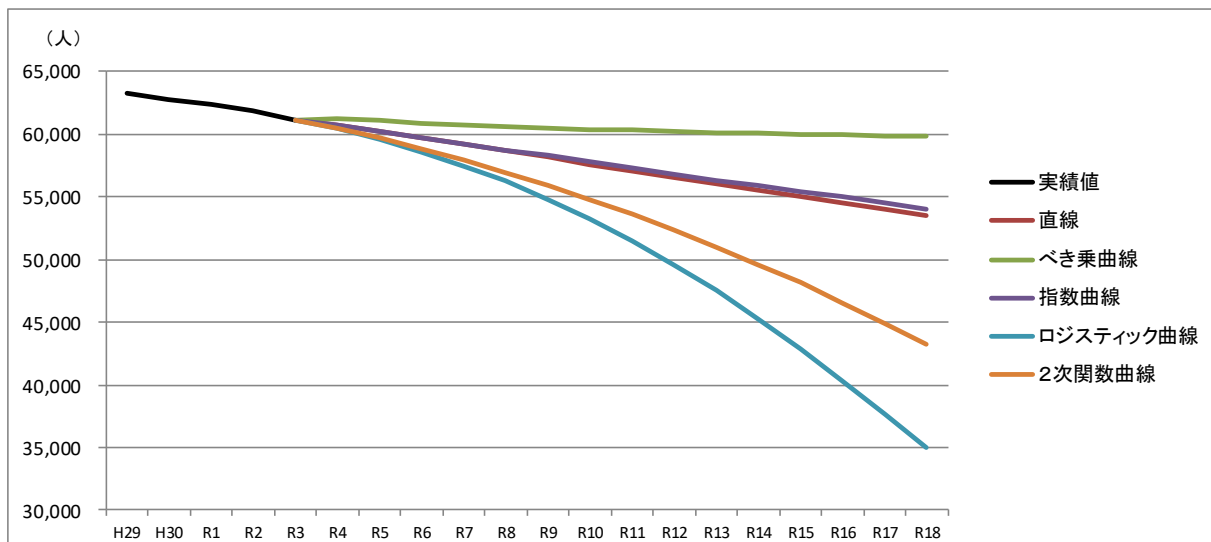


図 1-2 将来人口推計結果

### 1. 3 ごみ排出量の予測

#### 1) 排出区分別排出量の予測

排出区分別排出量の予測は、表 1-3 に示す過去 5 年間の実績値を基に生活系は 1 人 1 日当たり排出量として、事業系は 1 日当たり排出量として予測します。

表 1-3 排出区分別原単位量

分別区分		単位	H29	H30	R1	R2	R3
ごみ 排出量	生活系収集ごみ	t/年	13,009	12,643	12,744	12,984	12,555
	生活系直接搬入ごみ	t/年	123	144	151	191	183
	事業系ごみ	t/年	4,375	4,208	4,084	3,678	4,005
1人1日 (t/日) 当たり 排出量	生活系収集ごみ	g/人日	563	552	558	575	563
	生活系直接搬入ごみ	g/人日	6	7	7	9	8
	事業系ごみ	t/日	12	12	11	10	11



2) 生活系収集ごみの予測結果

ア) 実績と予測値

生活系収集ごみの予測結果は、表 1-4 及び図 1-3 に示すとおりです。

表 1-4 生活系収集ごみの予測結果

単位: g/人日

年度	推計結果					採用値 (べき乗- 2.5g)	
	直線	べき乗曲線	指数曲線	ロジスティック曲線	2次関数曲線		
H29	563					563	
H30	552					552	
R1	558					558	
R2	575					575	
↑ 実績	R3					563	
↓ 予測	R4	569	566	569	569	573	563
	R5	571	566	571	571	579	564
	R6	573	567	573	573	586	564
	R7	575	568	575	575	594	565
	R8	577	568	578	577	604	565
	R9	580	568	580	579	614	566
	R10	582	569	582	580	626	566
	R11	584	569	584	582	639	567
	R12	586	569	587	584	653	567
	R13	588	570	589	585	668	567
	R14	590	570	591	587	684	567
	R15	593	570	593	588	701	568
	R16	595	570	596	590	720	568
	R17	597	571	598	591	739	568
	R18	599	571	600	593	760	568
	推計式	$Y=a+b \cdot t$	$Y=a \cdot t^b$	$Y=a \cdot b^t$	$Y=K/(1+e^{-a-b \cdot t})$	$Y=a+b \cdot t+c \cdot t^2$	
	a	2.1716	558.1389	555.7403	0.1390	0.5606	
	b	555.7360	0.0076	1.0039	0.0356	-1.1917	
	K	---	---	---	632.89	559.660	
	r	0.1621	0.1024	0.1624	0.1604	<b>0.1773</b>	

増減率の 適合度合	推計式	自	至	年数	平均増加率(%)	判定
	実績値	563	563	5	0.000000	—
	直線	569	599	15	0.347762	3
	べき乗曲線	566	571	15	0.060782	1
	指数曲線	569	600	15	0.360148	4
	ロジスティック曲線	569	593	15	0.269945	2
	2次関数曲線	573	760	15	1.904820	5

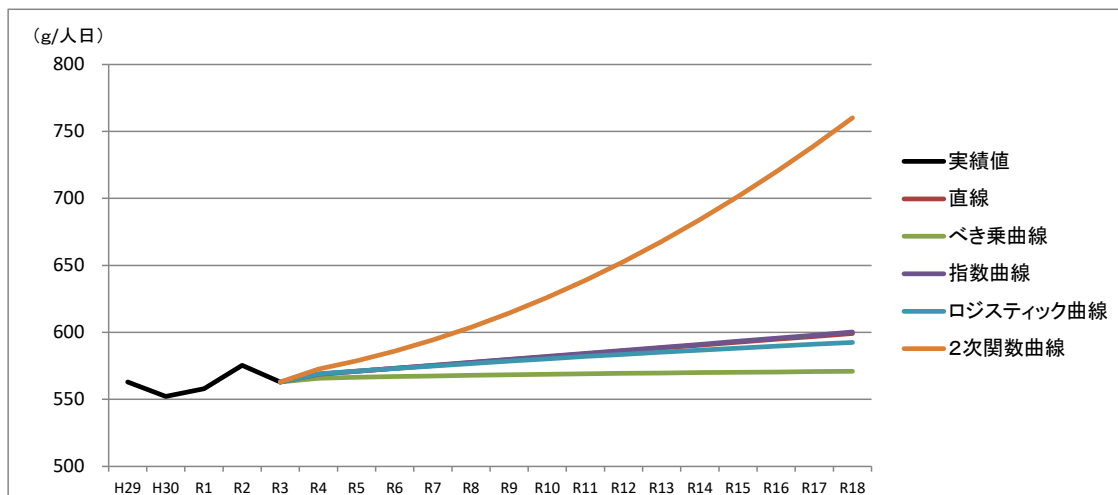


図 1-3 生活系収集ごみの予測結果

### イ) 採用値

実績は増減を繰り返しながら、令和3年度に前年度に比べて減少傾向に転じており、平成29年度の水準近くまで戻ってきています。予測値については全ての式で増加傾向を示していますが、予測値ほどの増加傾向とはなりにくいと考えられます。したがって、もっとも増加率が少ないべき乗曲線式を採用することが妥当といえます。ただし、予測式の計算結果と実績値の値で約 2.5 g の差が生じるため（令和3年度での差）、その差分を補正します。（推計値-2.5g/人日）

### 3) 生活系直接搬入ごみの予測結果

#### ア) 実績と予測値

生活系直接搬入ごみの予測結果は、表 1-5 及び図 1-4 に示すとおりです。

表 1-5 生活系直接搬入ごみの予測結果

		推計結果					採用値	
		直線	べき乗曲線	指数曲線	ロジスティック曲線	2次関数曲線	(R3実績値)	採用値 (べき乗- 0.8g)
		単位:g/人日						
	年度	推計結果					採用値	採用値
	H29	6					6	6
	H30	7					7	7
	R1	7					7	7
	R2	9					9	9
↑実績	R3	8					8	8
↓予測	R4	9	8	9	9	7	8	7
	R5	9	8	9	9	6	8	8
	R6	9	9	10	9	5	8	8
	R7	10	9	10	9	3	8	8
	R8	10	9	11	10	1	8	8
	R9	11	9	11	10	-2	8	8
	R10	11	9	12	10	-5	8	8
	R11	11	9	12	10	-8	8	8
	R12	12	9	13	10	-12	8	8
	R13	12	9	14	10	-17	8	9
	R14	13	9	15	10	-21	8	9
	R15	13	10	15	10	-26	8	9
	R16	13	10	16	10	-32	8	9
	R17	14	10	17	10	-38	8	9
	R18	14	10	18	10	-44	8	9
	推計式	$Y=a+b\cdot t$	$Y=a\cdot t^b$	$Y=a\cdot b^t$	$Y=K/(1+e^{-a-b\cdot t})$	$Y=a+b\cdot t+c\cdot t^2$		
	a	0.4012	6.3801	6.2324	0.7236	-0.2027		
	b	6.1831	0.1424	1.0547	0.2235	1.6172		
	K	---	---	---	10.41	4.764		
	r	0.2651	0.3023	0.2547	0.2840	<b>0.3598</b>		

増減率の 適合度合	推計式	自	至	年数	平均増加率(%)	判定
	実績値	6	8	5	5.922384	—
	直線	9	14	15	3.411173	1
	べき乗曲線	8	10	15	1.149172	2
	指数曲線	9	18	15	5.094558	4
	ロジスティック曲線	9	10	15	1.106663	3
	2次関数曲線	7	-44	15	-212.847549	5

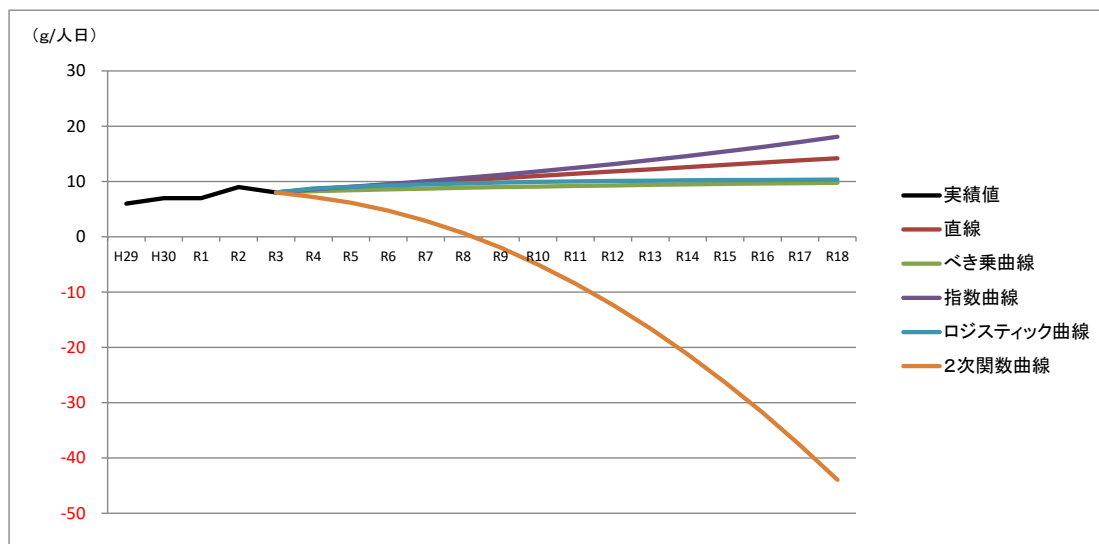


図 1-4 生活系直接搬入ごみの予測結果

#### イ) 採用値

実績はほぼ横ばい傾向を示しており、平成 29 年度の水準とほぼ変わりありません。予測値については 2 次関数式を除く全ての式で増加傾向を示していますが、直近の減少との整合が取りにくいと考えられます。したがってもっとも増加率が少ないべき乗曲線式を採用することが妥当といえます。ただし、予測式の計算結果と実績値の値で約 0.8 g の差が生じるため（令和 3 年度での差）、その差分を補正します。（推計値-0.8）

#### 4) 事業系ごみの予測結果

##### ア) 実績と予測値

事業系ごみの予測結果は、表 1-6 及び図 1-5 に示すとおりです。

表 1-6 事業系ごみの予測結果

単位:t/日

年度	推計結果					採用値 (R3実績値)	採用値 (べき乗+0.4t)
	直線	べき乗曲線	指数曲線	ロジスティック曲線	2次関数曲線		
H29	12					12	12
H30	12					12	12
R1	11					11	11
R2	10					10	10
↑実績	11					11	11
↓予測	10	10	10	10	11	11	11
	10	10	10	9	12	11	11
	9	10	10	9	13	11	11
	9	10	9	8	14	11	10
	9	10	9	7	15	11	10
	8	10	9	7	17	11	10
	8	10	8	6	19	11	10
	8	10	8	5	22	11	10
	7	10	8	5	24	11	10
	7	10	8	4	27	11	10
	7	10	7	3	30	11	10
	6	10	7	3	34	11	10
	6	10	7	2	38	11	10
	6	9	7	2	42	11	10
	5	9	7	2	46	11	10
推計式	$Y=a+b\cdot t$	$Y=a\cdot t^b$	$Y=a\cdot b^t$	$Y=K/(1+e^{-b\cdot t})$	$Y=a+b\cdot t+c\cdot t^2$		
a	-0.3479	12.0302	12.2153	0.0911	0.1425		
b	12.1884	-0.0816	0.9693	-0.2167	-1.2031		
K	---	---	---	13.18	13.186		
r	0.5975	0.6662	0.6079	0.5417	<b>0.7379</b>		

増減率の 適合度合	推計式	自	至	年数	平均増加率(%)	判定
	実績値	11.99	10.97	5	-1.751734	—
	直線	10.10	5.23	15	-4.293708	3
	べき乗曲線	10.39	9.42	15	-0.652851	1
	指数曲線	10.13	6.55	15	-2.864065	2
	ロジスティック曲線	9.88	1.66	15	-11.213277	4
	2次関数曲線	11.10	46.13	15	9.964183	5

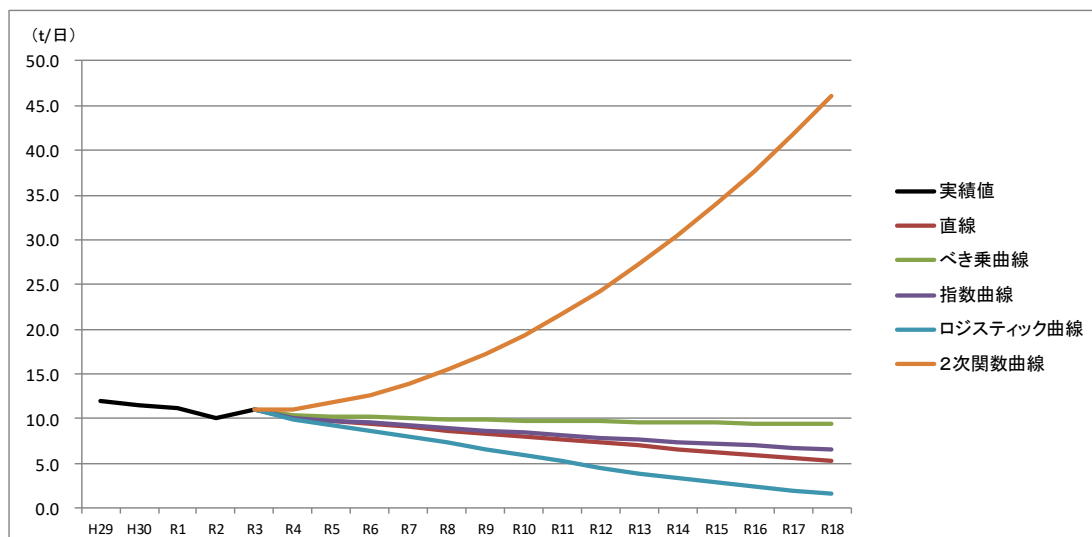


図 1-5 事業系ごみの予測結果

### イ) 採用値

実績は減少傾向を示していましたが、令和3年度に前年度に比べて増加傾向に転じており、底打ち傾向も見えています。予測値については2次関数式を除く全ての式で減少傾向を示していますが、直近の増加との整合が取りにくいと考えられます。したがってもっとも減少率が少ないべき乗曲線式を採用することが妥当といえます。ただし、予測式の計算結果と実績値の値で約 0.4 t の差が生じるため（令和3年度での差）、その差分を補正します。（推計値 +0.4t/日）

## 5) ごみ総排出量の予測

### ア) 現状のまま推移した場合

現状のまま推移した場合の予測結果は、表 1-7 及び図 1-6 に示すとおりとなり、計画目標年度（令和14年度）で 15,380 t となります。

### イ) 減量化を推進した場合

基準年度（令和3年度）比でマイナス 8.0%の目標（690 g/人日）を達成するために、以下の排出削減方針を設定します。

- ◆ 生活系ごみ、事業系ごみ：予測値に対して令和7年度までは2年で1%の減量、その後は毎年1%の減量

この結果、減量化後の予測値は表 1-8 及び図 1-7 に示すとおりとなり、計画目標年度（令和14年度）におけるごみの総排出量は、13,996 t と基準年度（令和3年度）に対して 8.4% の減量となります。

表 1-7 ごみ総排出量の予測結果（現状のまま推移）

区分\年度		実績					推計値											備 考
		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
計画収集人口	(人)	63,285	62,720	62,407	61,827	61,146	60,639	60,137	59,638	59,144	58,653	58,167	57,685	57,207	56,732	56,262	55,795	①：指数式を採用
生活系ごみ排出量							0.9877	0.9860	0.9860	0.9860	0.9860	0.9861	0.9861	0.9861	0.9861	0.9844	0.9844	
委託収集ごみ	(g/人日)	563	552	558	575	563	563	564	564	565	565	566	566	567	567	567	567	②：べき乗式を採用
直接搬入ごみ		6	7	7	9	8	7	8	8	8	8	8	8	8	8	9	9	③：べき乗式を採用
計		569	559	565	584	571	570	572	572	573	573	574	574	575	575	576	576	④：②+③
委託収集ごみ	(t/年)	13,009	12,643	12,744	12,984	12,555	12,461	12,414	12,277	12,197	12,096	12,050	11,917	11,839	11,741	11,676	11,547	⑤：①×②×365(366)÷10 <sup>6</sup>
直接搬入ごみ		123	144	151	191	183	155	176	174	173	171	170	168	167	166	185	183	⑥：①×③×365(366)÷10 <sup>6</sup>
計		13,132	12,787	12,895	13,175	12,738	12,616	12,590	12,451	12,370	12,267	12,220	12,086	12,006	11,907	11,861	11,730	⑦：⑤+⑥
集団回収ごみ量																		
集団回収ごみ	(g/人日)	87	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	⑧：平成30年度よりなし
計		87	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	⑨：⑧
集団回収ごみ	(t/年)	571	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	⑩：平成30年度よりなし
計		571	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	⑪：⑩
事業系ごみ排出量																		
許可収集ごみ	(t/日)	12	12	11	10	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	⑫：べき乗式を採用
計		12	12	11	10	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	⑬：⑫
許可収集ごみ	(t/年)	4,375	4,208	4,084	3,678	4,005	4,015	4,026	4,015	3,650	3,650	3,660	3,650	3,650	3,650	3,660	3,650	⑭：⑫×365(366)
計		4,375	4,208	4,084	3,678	4,005	4,015	4,026	4,015	3,650	3,650	3,660	3,650	3,650	3,650	3,660	3,650	⑮：⑭
ごみ総排出量																		
	(t/年)	18,078	16,995	16,979	16,853	16,743	16,631	16,616	16,466	16,020	15,917	15,880	15,736	15,656	15,557	15,521	15,380	⑯：⑦+⑪+⑮
	(g/人・日)	845	743	744	747	750	751	755	756	742	743	746	747	750	751	754	755	⑰：⑯÷(①×365(366))×10 <sup>6</sup>
	対R3比率						100.16%	100.63%	100.83%	98.92%	99.11%	99.43%	99.62%	99.95%	100.14%	100.47%	100.67%	

(g/人日)

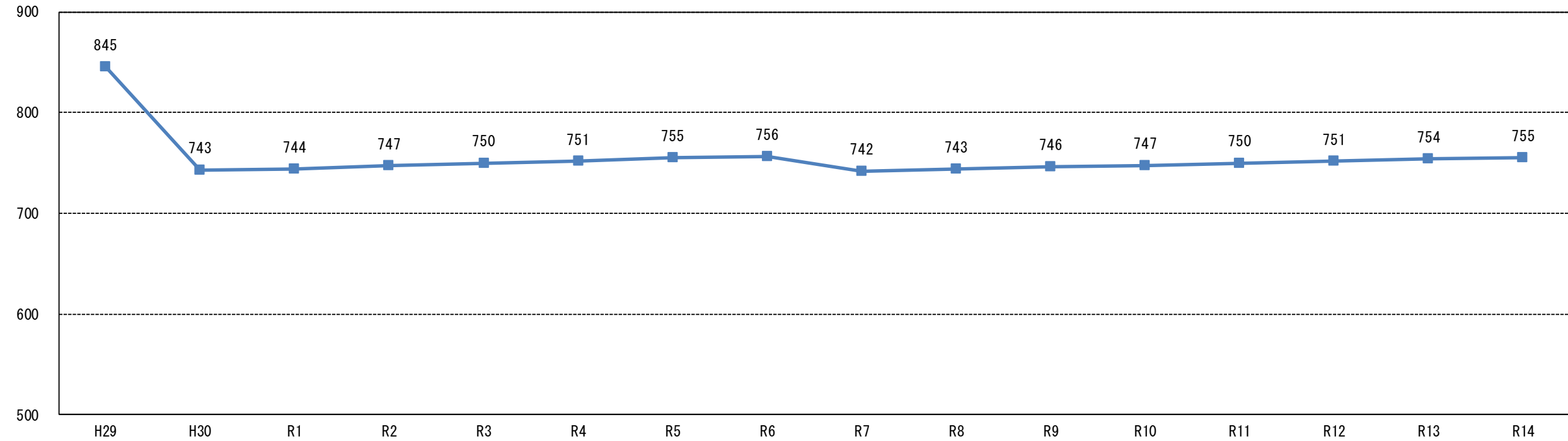


図 1-6 1人1日当たりごみ総排出量の予測結果（現状のまま推移）

表 1-8 ごみ総排出量の予測結果（減量化後）

区分\年度	実績					推計値												備 考
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14		
計画収集人口	(人)	63,285	62,720	62,407	61,827	61,146	60,639	60,137	59,638	59,144	58,653	58,167	57,685	57,207	56,732	56,262	55,795	①：指数式を採用
生活系ごみ排出量																		
委託収集ごみ	(g/人日)	563	552	558	575	563	557	558	553	554	548	543	538	533	527	522	516	②：べき乗式を採用×減量率
直接搬入ごみ		6	7	7	9	8	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	③：べき乗式を採用×減量率
計		569	559	565	584	571	564	566	561	562	556	551	545	541	535	530	524	④：②+③
委託収集ごみ	(t/年)	13,009	12,643	12,744	12,984	12,555	12,336	12,290	12,032	11,953	11,733	11,568	11,321	11,129	10,919	10,742	10,508	⑤：①×②×365(366)÷10 <sup>6</sup>
直接搬入ごみ		123	144	151	191	183	153	174	171	169	166	164	160	157	156	171	167	⑥：①×③×365(366)÷10 <sup>6</sup>
計		13,132	12,787	12,895	13,175	12,738	12,490	12,464	12,202	12,122	11,899	11,731	11,481	11,286	11,075	10,912	10,675	⑦：⑤+⑥
集団回収ごみ量																		
集団回収ごみ	(g/人日)	87	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	⑧：平成30年度よりなし
計		87	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	⑨：⑧
集団回収ごみ	(t/年)	571	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	⑩：平成30年度よりなし
計		571	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	⑪：⑩
事業系ごみ排出量																		
許可収集ごみ	(t/日)	12	12	11	10	11	11	11	11	10	10	10	10	9	9	9	9	⑫：べき乗式を採用×減量率
計		12	12	11	10	11	11	11	11	10	10	10	10	9	9	9	9	⑬：⑫
許可収集ごみ	(t/年)	4,375	4,208	4,084	3,678	4,005	3,975	3,986	3,935	3,577	3,541	3,514	3,468	3,431	3,395	3,367	3,322	⑭：⑫×365(366)
計		4,375	4,208	4,084	3,678	4,005	3,975	3,986	3,935	3,577	3,541	3,514	3,468	3,431	3,395	3,367	3,322	⑮：⑭
ごみ総排出量																		
	(t/年)	18,078	16,995	16,979	16,853	16,743	16,465	16,450	16,137	15,699	15,439	15,245	14,949	14,717	14,470	14,279	13,996	⑯：⑦+⑪+⑮
	(g/人・日)	845	743	744	747	750	744	747	741	727	721	716	710	705	699	693	687	⑰：⑯÷(①×365(366))×10 <sup>6</sup>
	対R3比率						99.2%	99.6%	98.8%	97.0%	96.1%	95.5%	94.7%	94.0%	93.2%	92.4%	91.6%	

(g/人日)

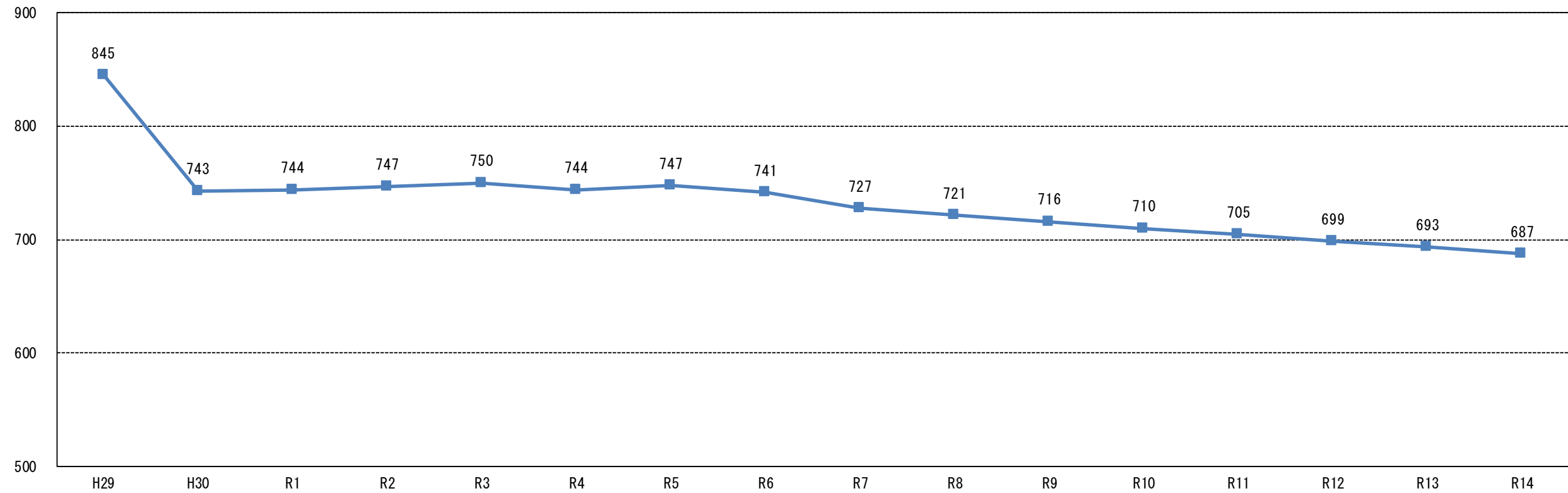


図 1-7 1人1日当たりごみ総排出量の予測結果（減量化後）



#### 1. 4 減量化後の分別排出量の予測

前項で検討を行った排出区分別のごみ排出量をもとに、種類別処理量を予測します。

なお、種類別処理量の予測は、令和3年度の実績の構成率にて按分します。

表 1-9 に令和3年度の種類別割合を、表 1-10 に種類別処理量の予測を示します。

表 1-9 種類別割合の実績

単位:t/年

項目	R3排出量	構成率
生活系ごみ	12,738	
収集ごみ	12,555	100.0%
可燃ごみ	10,561	84.1%
資源ごみ	1,269	10.1%
不燃ごみ	487	3.9%
粗大ごみ	238	1.9%
直接搬入ごみ	183	100.0%
可燃ごみ	1	0.5%
資源ごみ	5	2.7%
不燃ごみ	2	1.1%
粗大ごみ	175	95.6%



表 1-10 種類別処理量の予測結果

単位：t/年

分別区分\年度	実績					推計値											備 考
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
ごみ総排出量	17,507	16,995	16,979	16,853	16,743	16,465	16,450	16,137	15,699	15,439	15,245	14,949	14,717	14,470	14,279	13,996	①：②+⑬
生活系ごみ	13,132	12,787	12,895	13,175	12,738	12,490	12,464	12,202	12,122	11,899	11,731	11,481	11,286	11,075	10,912	10,675	②：③+⑧
収集ごみ	13,009	12,643	12,744	12,984	12,555	12,336	12,290	12,032	11,953	11,733	11,568	11,321	11,129	10,919	10,742	10,508	③：予測値より
可燃ごみ	10,937	10,693	10,817	10,871	10,561	10,375	10,336	10,119	10,052	9,867	9,728	9,521	9,359	9,183	9,034	8,837	④：③×84.1%
資源ごみ	1,452	1,332	1,249	1,294	1,269	1,246	1,241	1,215	1,207	1,185	1,168	1,143	1,124	1,103	1,085	1,061	⑤：③×10.1%
不燃ごみ	435	481	501	579	487	481	479	469	466	458	451	442	434	426	419	410	⑥：③×3.9%
粗大ごみ	185	137	177	240	238	234	234	229	227	223	220	215	211	207	204	200	⑦：③×1.9%
直接搬入ごみ	123	144	151	191	183	153	174	171	169	166	164	160	157	156	171	167	⑧：予測値より
可燃ごみ	4	2	2	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	⑨：⑧×0.5%
資源ごみ	3	5	3	3	5	4	5	5	5	5	4	4	4	4	5	5	⑩：⑧×2.7%
不燃ごみ	3	2	5	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	⑪：⑧×1.1%
粗大ごみ	113	135	141	181	175	147	167	163	162	159	156	153	150	149	163	159	⑫：⑧×95.6%
事業系ごみ	4,375	4,208	4,084	3,678	4,005	3,975	3,986	3,935	3,577	3,541	3,514	3,468	3,431	3,395	3,367	3,322	⑬：予測値より
収集ごみ	4,375	4,208	4,084	3,678	4,005	3,975	3,986	3,935	3,577	3,541	3,514	3,468	3,431	3,395	3,367	3,322	⑭：⑬
可燃ごみ	4,375	4,208	4,084	3,678	4,005	3,975	3,986	3,935	3,577	3,541	3,514	3,468	3,431	3,395	3,367	3,322	⑮：⑭

※備考中の計算式にあるパーセント値は、令和3年度実績値からの比率である

## 1. 5 資源化促進後の処理施設別処理量及び資源化量の予測

減量化後、資源化を促進しない場合、計画目標年度（令和 14 年度）における資源化率は、表 1-11 に示すとおり 15.3%となり、基準年度（令和 3 年度）の実績に対して微減となり、資源化の目標である資源化率 20%の達成は難しい状況です。

このため、更なる資源化促進を行う必要があることから、現在の分別収集の徹底を呼びかけるとともに、以下の方針を定めます。

- ◆可燃ごみ中に含まれている「紙類」について、更なる分別の徹底を行うことで資源化とします。
- ◆可燃ごみ中に含まれている「プラスチック類」について、更なる分別の徹底を行うことで資源化とします。

資源化量は、紙ごみが 1.0%～5.5%と漸増し、プラスチック類も 0.5%～1.5%と漸増させることとします。ただし、プラスチック類は令和 9 年度からの回収を見込みます。

更なる資源化の促進を行った場合の排出区分別排出量及び排出区分別処理量の予測結果は、表 1-12 に示すとおりとなります。

この結果、計画目標年度（令和 14 年度）における資源化率は 20.9%となり、資源化の目標である 20%以上を達成することが可能となります。



表 1-11 排出区別排出量の予測結果（減量のみ資源化促進せず）

単位：t/年

分別区分\年度	実績					推計値											備 考
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
ごみ総排出量	18,078	16,995	16,979	16,853	16,743	16,465	16,450	16,137	15,699	15,439	15,245	14,949	14,717	14,470	14,279	13,996	①：予測値より
総資源化量	2,691	2,524	2,384	2,538	2,579	2,508	2,505	2,455	2,414	2,371	2,340	2,292	2,255	2,215	2,184	2,139	②：⑭+⑮
シフト前の直接資源化量	1,455	1,333	1,254	1,299	1,274	1,250	1,246	1,220	1,212	1,190	1,173	1,148	1,128	1,107	1,090	1,066	③：予測値より
資源ごみ	1,455	1,337	1,252	1,297	1,274	1,250	1,246	1,220	1,212	1,190	1,173	1,148	1,128	1,107	1,090	1,066	③：予測値（資源ごみ）より
紙類	457	372	318	323	317	311	310	304	302	296	292	286	281	276	271	265	④：③×24.9%
金属類	101	96	88	94	109	108	107	105	104	102	101	99	97	95	94	92	⑤：③×8.6%
ガラス類	328	320	300	330	289	284	283	277	275	270	266	261	256	251	247	242	⑥：③×22.7%
ペットボトル	53	52	51	56	57	56	56	55	55	54	53	52	51	50	49	48	⑦：③×4.5%
容器包装プラスチック	474	451	460	454	458	449	447	438	435	427	421	412	405	397	391	383	⑧：③×35.9%
布類	21	19	17	19	21	20	20	20	19	19	19	18	18	18	17	17	⑨：③×1.6%
廃食用油	0	0	0	0	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	⑩：③×0.2%
その他（有害ごみ）	21	23	20	23	21	20	20	20	19	19	19	18	18	18	17	17	⑪：③×1.6%
シフト後の直接資源化量	1,455	1,337	1,252	1,297	1,274	1,250	1,246	1,220	1,212	1,190	1,173	1,148	1,128	1,107	1,090	1,066	⑫：③
処理施設に伴う資源化量	1,236	1,191	1,130	1,239	1,305	1,258	1,259	1,235	1,202	1,182	1,167	1,144	1,126	1,108	1,095	1,073	⑬：⑰+⑳+㉑
可燃ごみ	15,316	14,903	14,903	14,553	14,568	14,351	14,322	14,054	13,630	13,409	13,243	12,990	12,791	12,578	12,402	12,159	⑭：予測値（可燃ごみ）より
不燃・粗大ごみ処理残渣	630	634	681	818	764	732	747	731	726	712	702	687	675	664	667	653	⑮：㉒×84.7%
焼却処理量	15,946	15,537	15,584	15,371	15,332	15,083	15,069	14,785	14,356	14,121	13,945	13,677	13,466	13,242	13,069	12,812	⑯：⑭+⑮
セメント原料（焼却灰・飛灰）	1,132	1,069	992	1,056	1,169	1,146	1,145	1,124	1,091	1,073	1,060	1,039	1,023	1,006	993	974	⑰：⑯×7.6%
不燃ごみ	438	483	506	583	488	483	481	471	468	459	453	443	436	428	421	412	⑱：予測値（不燃ごみ）より
粗大ごみ	298	272	318	421	413	381	400	392	389	382	376	368	362	357	367	359	⑲：予測値（粗大ごみ）より
粗大処理量	736	755	824	1,004	901	864	881	863	857	841	829	811	797	784	788	771	⑳：⑱+㉒
金属類	94	112	126	170	124	100	102	100	99	98	96	94	92	91	91	89	㉑：㉒×13.7%
その他（有害ごみ）	10	10	12	13	12	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	㉒：㉒×1.3%
資源化率	14.9%	14.9%	14.0%	15.1%	15.4%	15.2%	15.2%	15.2%	15.4%	15.4%	15.3%	15.3%	15.3%	15.3%	15.3%	15.3%	㉓：②÷①
焼却処理量	15,946	15,537	15,584	15,371	15,332	15,083	15,069	14,785	14,356	14,121	13,945	13,677	13,466	13,242	13,069	12,812	㉔：㉕+㉖
可燃ごみ量	15,316	14,903	14,903	14,553	14,568	14,351	14,322	14,054	13,630	13,409	13,243	12,990	12,791	12,578	12,402	12,159	㉕：⑭
不燃粗大ごみ処理残渣量	630	634	681	818	764	732	747	731	726	712	702	687	675	664	667	653	㉖：⑮
最終処分量	1,200	1,106	1,219	1,134	897	882	882	865	840	826	816	800	788	775	765	750	㉗：㉘+㉙
焼却処理量	15,946	15,537	15,584	15,371	15,332	15,083	15,069	14,785	14,356	14,121	13,945	13,677	13,466	13,242	13,069	12,812	㉘：⑯
焼却残渣量	1,198	1,104	1,217	1,132	896	881	881	864	839	825	815	799	787	774	764	749	㉙：⑱×5.8%
直接埋立量	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	㉚：㉒×0.1%
最終処分率	6.6%	6.5%	7.2%	6.7%	5.4%	5.4%	5.4%	5.4%	5.4%	5.4%	5.4%	5.4%	5.4%	5.4%	5.4%	5.4%	㉛：㉗÷①

※備考中の計算式にあるパーセント値は、令和3年度実績値からの比率である

表 1-12 排出区分別排出量の予測結果（資源化促進後）

単位：t/年

分別区分\年度	実績					推計値											備 考
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
ごみ総排出量	18,078	16,995	16,979	16,853	16,743	16,465	16,450	16,137	15,699	15,439	15,245	14,949	14,717	14,470	14,279	13,996	①：予測値より
総資源化量	2,691	2,524	2,384	2,538	2,579	2,641	2,770	2,844	2,854	2,867	2,890	2,892	2,905	2,912	2,929	2,926	②：③+⑬
シフト前の直接資源化量	1,455	1,333	1,254	1,299	1,274	1,250	1,246	1,220	1,212	1,190	1,173	1,148	1,128	1,107	1,090	1,066	③：予測値より
資源ごみ	1,455	1,337	1,252	1,297	1,274	1,250	1,246	1,220	1,212	1,190	1,173	1,148	1,128	1,107	1,090	1,066	③：予測値（資源ごみ）より
紙類	457	372	318	323	317	311	310	304	302	296	292	286	281	276	271	265	④：③×24.9%
金属類	101	96	88	94	109	108	107	105	104	102	101	99	97	95	94	92	⑤：③×8.6%
ガラス類	328	320	300	330	289	284	283	277	275	270	266	261	256	251	247	242	⑥：③×22.7%
ペットボトル	53	52	51	56	57	56	56	55	55	54	53	52	51	50	49	48	⑦：③×4.5%
容器包装プラスチック	474	451	460	454	458	449	447	438	435	427	421	412	405	397	391	383	⑧：③×35.9%
布類	21	19	17	19	21	20	20	20	19	19	19	18	18	18	17	17	⑨：③×1.6%
廃食用油	0	0	0	0	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	⑩：③×0.2%
その他（有害ごみ）	21	23	20	23	21	20	20	20	19	19	19	18	18	18	17	17	⑪：③×1.6%
可燃ごみからのシフト（紙類）	—	—	—	—	—	144	286	422	477	536	530	520	576	629	620	669	⑫：可燃ごみ量×1.0%~5.5%
可燃ごみからのシフト（プラ類）	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	66	130	128	126	186	182	⑬：可燃ごみ量×0.5%~1.5%
シフト後の直接資源化量	1,455	1,337	1,252	1,297	1,274	1,394	1,532	1,641	1,689	1,726	1,769	1,797	1,832	1,862	1,896	1,917	⑭：③+⑫+⑬
処理施設に伴う資源化量	1,236	1,191	1,130	1,239	1,305	1,247	1,237	1,203	1,165	1,141	1,121	1,095	1,073	1,050	1,034	1,009	⑮：⑳+㉑+㉒
可燃ごみ	15,316	14,903	14,903	14,553	14,568	14,351	14,322	14,054	13,630	13,409	13,243	12,990	12,791	12,578	12,402	12,159	⑯：予測値（可燃ごみ）より
資源ごみへのシフト量	—	—	—	—	—	144	286	422	477	536	596	649	704	755	806	851	⑰：⑫+⑬
シフト後の可燃ごみ量	15,316	14,903	14,903	14,553	14,568	14,207	14,036	13,633	13,153	12,872	12,647	12,340	12,088	11,824	11,596	11,308	⑱：⑯-⑰
不燃・粗大ごみ処理残渣	630	634	681	818	764	732	747	731	726	712	702	687	675	664	667	653	⑲：㉒×84.7%
焼却処理量	15,946	15,537	15,584	15,371	15,332	14,939	14,783	14,364	13,879	13,584	13,349	13,027	12,763	12,488	12,263	11,961	⑳：㉒+㉓
セメント原料（焼却灰・飛灰）	1,132	1,069	992	1,056	1,169	1,135	1,123	1,092	1,055	1,032	1,015	990	970	949	932	909	㉑：㉒×7.6%
不燃ごみ	438	483	506	583	488	483	481	471	468	459	453	443	436	428	421	412	㉒：予測値（不燃ごみ）より
粗大ごみ	298	272	318	421	413	381	400	392	389	382	376	368	362	357	367	359	㉓：予測値（粗大ごみ）より
粗大処理量	736	755	824	1,004	901	864	881	863	857	841	829	811	797	784	788	771	㉔：㉒+㉓
金属類	94	112	126	170	124	100	102	100	99	98	96	94	92	91	91	89	㉕：㉔×13.7%
その他（有害ごみ）	10	10	12	13	12	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	㉖：㉔×1.3%
資源化率	14.9%	14.9%	14.0%	15.1%	15.4%	16.0%	16.8%	17.6%	18.2%	18.6%	19.0%	19.3%	19.7%	20.1%	20.5%	20.9%	㉗：②÷①
焼却処理量	15,946	15,537	15,584	15,371	15,332	14,939	14,783	14,364	13,879	13,584	13,349	13,027	12,763	12,488	12,263	11,961	㉘：㉒+㉓
可燃ごみ量	15,316	14,903	14,903	14,553	14,568	14,207	14,036	13,633	13,153	12,872	12,647	12,340	12,088	11,824	11,596	11,308	㉙：⑱
不燃粗大ごみ処理残渣量	630	634	681	818	764	732	747	731	726	712	702	687	675	664	667	653	㉚：⑲
最終処分量	1,200	1,106	1,219	1,134	897	874	865	840	812	795	781	762	747	731	718	700	㉛：㉜+㉝
焼却処理量	15,946	15,537	15,584	15,371	15,332	14,939	14,783	14,364	13,879	13,584	13,349	13,027	12,763	12,488	12,263	11,961	㉜：㉘
焼却残渣量	1,198	1,104	1,217	1,132	896	873	864	839	811	794	780	761	746	730	717	699	㉝：㉜×5.8%
直接埋立量	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	㉞：㉜×0.1%
最終処分率	6.6%	6.5%	7.2%	6.7%	5.4%	5.3%	5.3%	5.2%	5.2%	5.1%	5.1%	5.1%	5.1%	5.1%	5.0%	5.0%	㉟：㉛÷①

※備考中の計算式にあるパーセント値は、令和3年度実績値からの比率である

## 2 家庭ごみ（可燃ごみ）組成分析に関する資料

### 2. 1 調査概要

#### 1) 目的

津島市ごみ処理市民委員会及び市は、次期（令和5年度～令和14年度）津島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画を策定するにあたり、家庭から排出された可燃ごみの分別の状況や、未だ食べられるのに廃棄される「食品ロス」の実態を把握することを目的とし、組成調査を、任意に選択されたごみ集積場を持つ8町内の住民の方々のご協力のもと実施しました。

#### 2) 調査実施日

令和4年11月18日（金）に調査を実施しました。

### 2. 2 調査品目

調査品目は23種であり、その内訳は以下のとおりです。（下表のとおり）

表 2-1 調査品目

区分	細目
厨 芥 類	① 未利用食品（包装は外す）
	② 食べ残し（残飯）
	③ 調理くず（皮、種など）
	④ その他厨芥類
紙 類	⑤ 新聞紙・雑誌・チラシ
	⑥ ダンボール
	⑦ 紙パック（裏白）
	⑧ 雑紙その他再生可能な紙類
	⑨ 紙おむつ
	⑩ その他再生できない紙類
プラスチック類	⑪ PETボトル
	⑫ 白色トレイ
	⑬ レジ袋
	⑭ 硬質プラスチック
	⑮ その他プラ製容器包装
	⑯ その他プラスチック
その他可燃ごみ	⑰ 衣類・革製品
	⑱ 剪定枝等草木類
	⑲ 割箸等その他可燃物
そ の 他	⑳ 金属類
	㉑ 陶器・ガラス類
	㉒ 乾電池他有害物
	㉓ 砂・粘土



## 2. 3 調査方法

- ①資源車により、任意に抽出された市内集積場の可燃ごみ計 48 袋（約 180 kg）を採取
- ②海部地区環境事務組合所有の八穂クリーンセンターの一部を借用して、空き缶用資源カゴ（青）を使い、上記 23 品目に沿って選別
- ③回収の際、剪定枝のみなど明らかに結果に偏りが出る袋は採取しない

## 2. 4 調査結果

調査の結果を表 2-2 に示します。

表 2-2 分析調査結果

大分類	中分類	計測重量 kg	加数 個	容器重量 kg	正味重量 kg	全重量に占める割合 %
厨芥類	① 未利用食品(未開封のみ)	6.30	1	3.35	2.95	1.7%
	② 食べ残し(残飯)	21.00	1	3.35	17.65	
	③ 調理くず(皮、種など)	47.95	2	6.70	41.25	
	④ その他厨芥類	5.50	1	3.35	2.15	
小計		80.75	5	16.75	64.00	36.3%
紙類	⑤ 新聞紙・雑誌・チラシ	6.90	1	3.35	3.55	22.8%
	⑥ ダンボール	4.40	1	3.35	1.05	
	⑦ 紙パック(裏白)	5.50	1	3.35	2.15	
	⑧ 雑紙その他再生可能な紙類	20.50	3	10.05	10.45	
	⑨ 紙おむつ	19.30	1	3.35	15.95	
	⑩ その他再生できない紙類	13.70	2	6.70	7.00	
小計		70.30	9	30.15	40.15	22.8%
プラスチック類	⑪ PETボトル	3.70	1	3.35	0.35	10.0%
	⑫ 白色トレイ	3.35	1	3.35	0.05未満※	
	⑬ レジ袋	7.00	2	6.70	0.30	
	⑭ 硬質プラスチック	5.70	1	3.35	2.35	
	⑮ その他プラ製容器包装	36.58	8	26.80	9.78	
	⑯ その他プラスチック	14.85	3	10.05	4.80	
小計		71.18	16	53.60	17.58	10.0%
その他 可燃ごみ	⑰ 衣類・革製品	12.15	1	3.35	8.80	28.9%
	⑱ 剪定枝等草木類	22.55	2	6.70	15.85	
	⑲ 割箸等その他可燃物	39.75	4	13.40	26.35	
小計		74.45	7	23.45	51.00	28.9%
その他	⑳ 金属類	3.70	1	3.35	0.35	2.1%
	㉑ 陶器・ガラス類	3.65	1	3.35	0.30	
	㉒ 乾電池他有害物	0.00	1	0.00	0.00	
	㉓ 砂・粘土	3.00	0	0.00	3.00	
小計		10.35	3	6.70	3.65	2.1%
合計		307.03	40	130.65	176.38	100.0%

※鉄製取手が片方無い容器で、計測重量は3.35Kg未満

調査の結果、重量比で可燃ごみのうち生ごみ(厨芥類)の占める割合は36.3%となりました。また、未開封のまま捨てられる食品や、紙パックや菓子箱等再生可能な紙類(雑紙として回収)など再生資源にできる紙類が散見されること、プラスチック製容器包装の全容量に占める割合も大きいことがわかりました。

## 2. 5 写真



写真-1 作業風景



写真-2 未利用食品

### 3 民間資源ステーションでの回収量に関する資料

#### 3.1 回収量

市内にある民間資源ステーションにおける資源回収量を表 3-1 に示します。

表 3-1 民間資源ステーションによる資源回収量

単位：t

年度	区分	施設名称	資源名称						計			
			新聞	雑誌	ダンボール	牛乳パック	古布	(アルミ缶)		(スチール缶)		
R2	無人	リサイクルステーション神守	70.87	77.50	133.29	0.00	54.02	6.42	5.23	347.33		
		リサイクルステーション昭和町	54.45	70.71	120.75	0.00	61.81	5.78	3.08	316.58		
		エコスタイル秋前町ステーション	13.00	22.00	40.00	0.00	17.00	1.00	0.00	93.00		
		エコール越津	10.61	18.91	38.34	2.94	1.05			71.85		
		エコール青塚町	12.74	16.05	26.84	2.83	3.32			61.78		
		エコール新開(R4.4.21設置)								0.00		
		合計	161.67	205.17	359.22	5.77	137.20	13.20	8.31	890.54		
	店舗併設	区分	施設名称	資源名称						計		
				ペットボトル	牛乳パック	アルミ缶	スチール缶	白色トレイ	(新聞)		(古布)	
		R2	店舗併設	ヨシヅヤ 津島本店リサイクルステーション	31.99	3.63	6.22	1.62	1.35	45.24	59.02	149.07
				ヨシヅヤ 津島北テラスリサイクルステーション	27.98	3.21	6.13	2.92	0.99	58.43	20.36	120.02
				ヨシヅヤ Yストア唐臼店リサイクルステーション※								0.00
				ヨシヅヤ Yストア津島駅東店リサイクルステーション	15.21	1.96	4.41	1.53	0.69	31.92	13.00	68.72
				フィール 津島店	4.07	2.75			1.68			8.49
				ヤマナカ 神守店	18.00	1.70	4.90		0.90			25.50
マックスバリュ 江西店 店内				個別集計は行っていないため、回答不可能とのこと							—	
マックスバリュ 江西店 駐車場内リサイクルステーション				個別集計は行っていないため、回答不可能とのこと							—	
合計	97.25	13.25	16.76	6.07	5.61	135.59	92.38	371.80				
総合計									1,262.34			
年度	区分	施設名称	資源名称						計			
			新聞	雑誌	ダンボール	牛乳パック	古布	(アルミ缶)		(スチール缶)		
R3	無人	リサイクルステーション神守	64.00	71.68	118.78	0.00	12.41	5.35	4.22	276.44		
		リサイクルステーション昭和町	50.30	52.44	114.52	0.00	9.55	5.34	2.56	234.71		
		エコスタイル秋前町ステーション	22.00	33.00	79.00	0.00	0.00			134.00		
		エコール越津	12.25	21.49	40.92	4.01	11.60			90.27		
		エコール青塚町	13.38	15.71	30.27	3.12	2.83			65.31		
		エコール新開(R4.4.21設置)								0.00		
		合計	161.93	194.32	383.49	7.13	36.39	10.69	6.78	800.73		
	店舗併設	区分	施設名称	資源名称						計		
				ペットボトル	牛乳パック	アルミ缶	スチール缶	白色トレイ	(新聞)		(古布)	
		R3	店舗併設	ヨシヅヤ 津島本店リサイクルステーション	38.32	3.55	5.76	1.89	1.03	48.03	27.69	126.27
				ヨシヅヤ 津島北テラスリサイクルステーション	29.10	3.28	5.46	3.32	0.90	60.52	25.36	127.94
				ヨシヅヤ Yストア唐臼店リサイクルステーション※	4.77	0.70	1.56	0.25	0.24	2.38	0.86	10.76
				ヨシヅヤ Yストア津島駅東店リサイクルステーション	16.96	2.28	4.40	2.00	0.64	33.43	14.54	74.25
				フィール 津島店	4.92	3.18			4.86			12.96
				ヤマナカ 神守店	15.40	1.70	3.90		0.70			21.70
マックスバリュ 江西店 店内				個別集計は行っていないため、回答不可能とのこと							—	
マックスバリュ 江西店 駐車場内リサイクルステーション				個別集計は行っていないため、回答不可能とのこと							—	
合計	109.47	14.69	21.08	7.46	8.37	144.36	68.45	373.88				
総合計									1,174.61			

※ヨシヅヤ Yストア唐臼店リサイクルステーション：令和3年11月～

※インターネット検索等により抽出した市内に設置された主な施設の調査結果。

### 3. 2 資源化率

前項の資源回収量を考慮した本市における資源化率を表 3-2 に示します。

表 3-2 民間回収量を考慮した資源化率

区分	R2	R3
① 本市の総資源化量	2,538	2,579
② 民間ステーション回収量	1,262	1,175
③ 合計資源化量 (①+②)	3,800	3,754
④ 本市の総排出量	16,853	16,743
⑤ 民間ステーション排出量	1,262	1,175
⑥ 合計総排出量 (④+⑤)	18,115	17,918
⑦ 資源化率 (③÷⑥)	21.0%	20.9%